

弁護士法人福岡法律事務所

代表弁護士 福岡 則博、弁護士 尾崎 悠吾

〒665-0845 兵庫県宝塚市栄町2丁目2番1号ソリオ3(5階)

TEL: 0797-87-5606 FAX: 0797-87-7160

HP: <https://www.fukuma-law.com/>

Mail: office@fukuma-law.com

執筆: 弁護士 福岡 則博



Legal F : Forces for Friends, Families and Fortunes (友人、家族、財産を守る力)

田坂広志著「すべては導かれている 逆境を越え、人生を拓く 五つの覚悟」(小学館 2017年12月)

本書の良さを伝えるのにどのようにしたら良いのでしょうか。少なくともそれは、本書の内容を語ることはないように思われるのです。本書の内容を要約して書くことはおそらく可能でしょうが、私はそれをしたくないという気持ちになります。それは私が、本書で書かれた内容を独り占めしたい、人に知らせるのはもったいない、と考えているからではありません。

私が要約するよりは、これを読んでいただくのが一番であり、読者一人一人が自分の内面と向かい合いながらゆっくりとこの本を読むのが最もこの本の良さを感ずることができるからです。

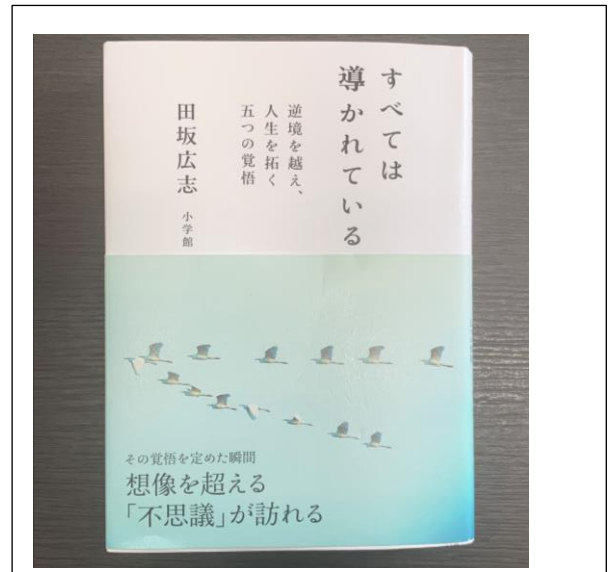
本書は、各頁の行数も少なく、その行の字数も少なく、さらに、行を空けてあるところもあるので、余白は十分です。しかし、だからといって、一気にさっさと読めるというわけではありません。余白は、休息であると共に、内省の時間でもあり、じっくりと読んでいく必要があります。いや、正確に言う、この余白で否が応でもゆっくりとした読書になっていきます。音符と五線譜がメロディーを奏するように、ここでは文字と空白が思想のリズムをもたらし、急ごうとする気持ちがせき止められ、思想は静かな調べとなって読者に伝えられていきます。

ただ、それは決してただ聞いていけば良い、ただ読んでいけば良いというものではなく、頻繁に出てくる疑問形の文章は読者への問いかけであり、余白のところで立ち止まり、自分の人生を思い巡らすことになるものでした。

本書は、知識を獲得すると言うよりは「思想を感じ取る」という読み方が合っているような気がしま

す。そのためには、要約を紹介してしまったのではそれがしにくくなり、できるだけ予備知識や先入観の少ない状態でこの本を読んでいただくのが良いのではないかと思う次第です。

著者は1951年生まれ、東京大学工学部卒業、同大学院修了、工学博士(原子力工学)であられ、32歳頃生死の境となる病を宣告され、最先端医学でも命を助けてもらえないとの絶望感からある禅寺に行かれ、そこで出会った禅師の言葉から人生観が転換し、その後、めざましい活躍をされ、病も消えてしまったという方です。



前回のニュースレターで触れたゼロポイントフィールドについても本書の最後の方で触れられています。科学(量子物理学)に精通されている方の本であり、その体験に裏付けられた話は強い説得力を有しています。

「すべては導かれている」と題するこの本において、「逆境を越え、人生を拓く五つの覚悟」が明確に語られています。その覚悟とは一体何なのでしょう。読んで頂けば、すべてが書いてあります。